



Xvive Duet Stereo Dual-Loop Loper (XV-D3)

使用上の注意

製品をご使用になる前に、以下の注意書きをよく読んでください

- ◆ 電源アダプター ACアダプターは、指定のものを正しい電圧の交流電源に接続してください。ACアダプターは9VDC (直流、+10%) 出力、センター・マイナスのもののみを使用してください。動作電圧は最大でも12Vを超えないようにしてください。これ以上の電圧を加えると、機器が危険な損傷を受けたり、発火したり、その他の問題が起きたりする可能性があります。また、雷が鳴っている時には、ACアダプターをコンセントから外しておいてください。
- ◆ 接続 機器の接続や取り外しをする時には、本体や他の機材の電源は全てオフにしておいてください。これによって、他の機材の誤動作や損傷が防げます。また、本器を移動させる時には、全ての接続ケーブルや電源コードが取り外されていることを確認してください。
- ◆ 取扱い スイッチやコントロール・ノブ類には、過剰な力を加えないでください。紙や金属などの異物が本体内に入らないようにしてください。本体を落としたり、本体に衝撃や異常な圧力を加えたりしないでください。
- ◆ 清掃 本体の清掃には、乾いた清潔な布を使用してください。必要に応じて、布をほんの少しだけ湿らせてください。研磨剤入りの洗剤や洗浄用アルコール、塗料用シンナー、ワックス、溶剤、洗浄液、化学物質を染み込ませた清掃用布などは使用しないでください。
- ◆ 他の電子機器による干渉 近くにラジオやテレビなどの通信機器があると、本体が干渉を受ける場合があります。本体は、ラジオやテレビなどの通信機器から十分に離れた場所でお使いください。
- ◆ 設置場所 変形や色落ち、その他の重大なダメージを防ぐために、本体を以下のような環境では使用しないでください。
●直射日光下 ●熱源の近く ●磁界の近く ●異常な高温 ●埃や汚れの多い場所 ●異常な湿気や湿度 ●強い振動や衝撃が加わる場所

はじめに

デュエット・ルーパーは、2つのループを連続して録音・再生できるミニ・ルーパーとしては、初めての製品だと自負しています。より一般的なアンドゥ／リドゥ・モードに加えて、良好な低域特性、高いヘッドルームを持ったステレオ入出力、入力に対して非常に低いレイテンシー (1.5msec以下)、トゥルー・バイパス、さらには、将来に備えたUSB経由でのアップデートおよびアップグレード機能を備えた本器は、かなり特別な製品ではないでしょうか。このペダルを長年にわたって愛用していただければ幸いです。

特徴

- アンドゥ／リドゥおよびバース／コーラスの2つのモードを持ったステレオ・デュアル・ループ・ルーパー。
- アナログを思わせるサウンドが得られる44.1kHz／24bitのステレオ・オーディオ回路。
- 出力の大きな楽器も扱える、ライン・レベルの3倍という高いダイナミック・レンジを持った入力。
- インストゥルメント・レベルのものからライン・レベルのものまで、様々な楽器に対応。
- 低音楽器にも有利な、10Hzまでフラットな周波数特性。
- トゥルー・バイパス。
- ファームウェアのアップデートおよび、将来的なアップデートやアップグレードに対応するための、USBポート。
- **バース／コーラス・モード**
*それぞれ最大5分まで録音可能な、2つの独立したループを連続して扱うモード。
*それぞれのループは単体で録音、オーバーダブ、再生が可能。
- **アンドゥ／リドゥ・モード**
*アンドゥおよびリドゥが可能、最長5分間の1系統のループ。
*録音・再生・オーバーダブおよび、アンビエント・ループに適した録音・オーバーダブ・再生が可能。
- 電源は9～12V。電源入力端子はセンター・マイナス、不適切な電圧や極性に対する保護対策あり。

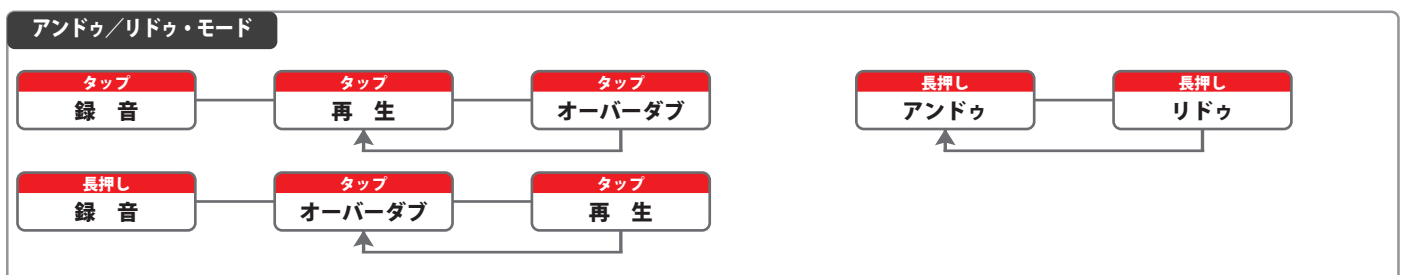
使い方

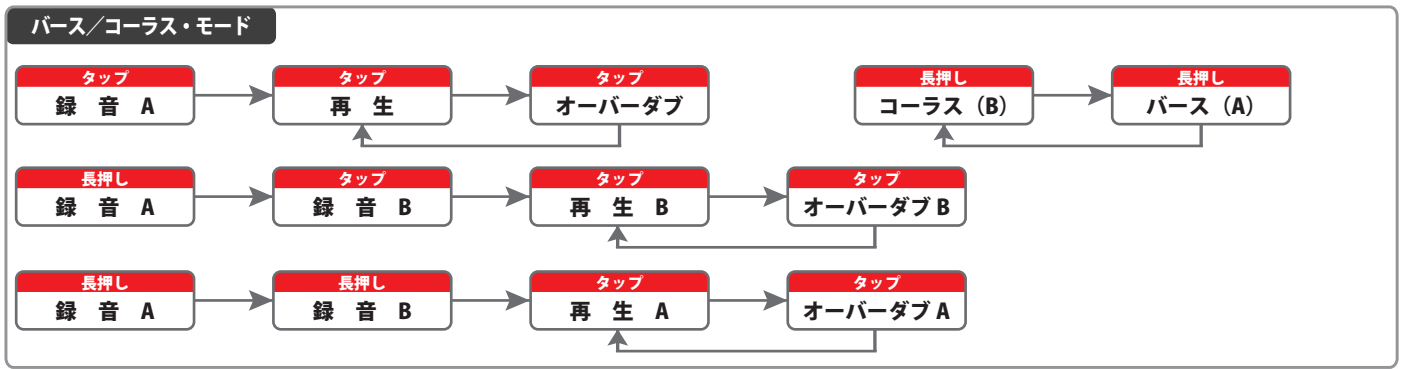
最も重要な点は、以下の通りです。

- ここでは、“レイヤー”と“ループ”について説明しています。
 - ループとは、あるひとまとまりのオーディオ・データで、ループ再生されます。
 - ループは、重ねて録音され、複数のレイヤーになったオーディオ信号を含む場合もあります。
 - 最初に録音したループは“第1の”あるいは“ベース”・レイヤーと呼び、それ以降に重ねたレイヤーは“オーバーダブ・レイヤー”と呼びます。

- それぞれのLEDは赤、紫、青のいずれかの色で点灯します。
 - 赤は常に“第1のレイヤーの録音状態”を示します。ただし、アンドゥ／リドゥ・モードで右側のLEDが点灯している時だけは例外で、この時にはループの終点でアンドゥの処理が行われることを意味します。
 - 青は常に“そのレイヤーの再生状態”を意味します。
 - 紫は常に“そのレイヤーへのオーバーダブ状態”を意味します。
- それぞれのLEDは、点灯、点滅(点灯時間の長い点滅)あるいはパルス点滅(点灯時間の短い点滅)します。
 - 点灯は、その機能が“動作中”であることを示します。
 - 点滅は、“次のループでその機能が動作する”ことを示します。
 - パルス点滅は、“その機能が使用可能だが、まだ使用していない”状態を示します。たとえば、赤くパルス点滅すれば“ベース・レイヤーが録音可能な”状態、青くパルス点滅すれば“そのレイヤーが再生可能な”状態を示します。デュエットがバイパス状態の時には、両方のLEDがパルス点滅します。
- アンドゥ／リドゥとバース／コーラスの2種類のモードがあります。
 - アンドゥ／リドゥ・モードでは、1つのレイヤーを録音したり、後からアンドゥしたりすることができます。待機状態では、1個のLEDが赤または青でパルス点滅し、1個のループを録音または再生できることを示します。
 - バース／コーラス・モードでは、2つのループを録音して、それらを交互に切り替えることができます。
- フットスイッチには、タップ、ダブル・タップ、長押し of 3通りの切り替え方があります。
 - タップ：素早く1回押します。
 - ダブル・タップ：0.5秒以内の時間差で2回押します。
 - 長押し：フットスイッチを0.5秒間押したままにしてから、スイッチを離します。
- 全ての操作は(停止の操作を除く)、次のループの頭の部分で有効になります。
- フットスイッチの長押しは通常、1種類の動作を意味します。
 - アンドゥ／リドゥ・モードで長押しすると、“アンドゥまたはリドゥ”の操作になります。
 - バース／コーラスのモードで長押しすると、“別のループに切り替える”操作になります。
- ペダルの電源をオフにしても、直前に録音されたオーディオ・データは保存されます。
- バース／コーラスからアンドゥ／リドゥにモードを切り替えると(あるいはその逆でも)、ループは停止しますが、録音されたオーディオ・データは維持されます。バースとコーラスを録音していた場合には、ひとつのループがメインになり、別のループがアンドゥ・ループ(あるいはその逆)になります。
- オーディオ・データの再生中または録音中に電源が切れると、ルーパー内データが破壊される可能性があります。再生中や録音中に電源を切らないでください。

クイック・リファレンス・ガイド





LEDの意味

1. 赤のパルス点滅：オーディオ・データを格納可能なループです。
2. 青のパルス点滅：録音されたデータを持ったループです。
3. 赤く点灯：“第1の(ベース)レイヤーを録音中”です。
4. 青く点灯：“ループを再生中”です。
5. 紫に点灯：“既存のループにオーバーダブ中”です。
6. LEDが速い周期で点滅している場合は、そのLEDの色が次の動作状態を示します。たとえば、ループを再生中にはLEDが青く点灯しますが、間もなくループをオーバーダブする場合には、LEDが速い周期の紫色で点滅します。オーバーダブが始まると点滅は止まり、紫色で点灯します。
7. LEDは、ループの頭の部分で一瞬消えます。これは、ループのひと回り分の再生が終わったことを視認できるようにするためです。

フットスイッチの押し方

フットスイッチの押し方には3通りあります。

1. **長押し(0.5秒)** すると、“そのループが最後まで再生された後、別のループに切り替わり”ます。
2. **ダブル・タップ** は、常に“停止”を意味します。
3. **それ以外の全ての操作** は、**タップ(1回)** で行います。

ベース/コーラス(V/C)・モードでの操作

V/Cモードでは、オーディオ・データを格納できるループが2つ用意されており、両者は切り替えることができます。これらを“ベース”および“コーラス”・ループと呼びますが、これらのループはどのようにでも使うことができます。

一般的に、タップの後の長押しは、タップの操作を行い、現在のループが最後まで来た後で別のループに切り替えることを意味します。

V/Cモードでルーパーの電源をオンにすると、両方のLEDがパルス点滅する“停止”の状態、ペダルはトゥルー・バイパスになります。LEDの色は、ループにオーディオ・データが無ければ赤、データがあれば青です。デュエット・ルーパーが初期状態の場合、2個のLEDが赤でパルス点滅し、2つのループが使用可能で、どちらもデータが無いことを示します(何らかのデータがある場合は、青でパルス点滅します)。

フットスイッチをタップすると、ペダルは“待機状態”になります。この状態で、デュエット・ルーパーは最初のループへの録音準備が整っており、片方のループのLEDが赤色で速く点滅します。これは、“今フットスイッチを踏めば、このLEDが点灯状態、すなわち、このループが録音状態になる”ことを意味します。

ここでフットスイッチをタップすれば、最初の(ベースの)ループの録音が始まります。最初のループの録音を終えるには、フットスイッチをタップします。すると、そのループのLEDが青く点灯して、“再生状態”に切り替わったことを示します。

ここでもう一度フットスイッチをタップすると、今度はLEDが紫でパルス点滅して、“現在のループが最後まで再生された後、オーバーダブ状態に切り替わる”ことを示します。

ループが最後まで再生されると、LEDが紫で点灯して、“オーバーダブ状態”になったことを示します。フットスイッチをタップするごとに、再生状態とオーバーダブ状態が切り替わります。

タップを繰り返して再生とオーバーダブを繰り返し、気に入ったループが出来上がったら、フットスイッチを0.5秒ほど長押しします。すると、コーラスのLEDが赤で速く点滅し、現在のループが最後まで再生された後に第2のループの録音が始まることを示します。

デュエット・ルーパーで第2のループを録音した後の操作は、第1のループの時と同じです。フットスイッチを長押しすると、2つのループが切り替わります。

アンドゥ／リドゥ・モード

アンドゥ／リドゥ・モード

1. 左のLED：バース／コーラス・モードと同様です。
2. 右のLED：赤で点灯した場合、アンドゥするためにそのループが最後まで再生されるのを待っている状態を示します。

アンドゥ／リドゥ・モードでの操作

アンドゥ／リドゥ・モードでの操作は V/C モードと同様ですが、下記の点が異なります。

1. ループは 1 系統のみ。
2. 最後のオーバーダブの“アンドゥ（取り消し）”が可能で、後にリドゥ（やり直し）することができます。
3. フットスイッチの長押しは“ループの最後にアンドゥする”ことを意味します。

アンドゥ／リドゥの操作が追加され、ループが 1 系統しかないという以外、デュエット・ルーパーの機能は V/C モードの時と同じです。V/C モードでは長押しが“ループを切り替える”操作だったのに対して、アンドゥ／リドゥ・モードでは“アンドゥ”の操作になります。

“オーバーダブを確定する”とは？

ループにオーバーダブするモードから出て再生モードに入った場合、オーバーダブは確定されたものと見なされます。オーバーダブされたオーディオ・データは保存されます。このオーバーダブの間に複数のレイヤーを重ねた場合にも、全てのレイヤーがそのオーバーダブの一部と見なされます。

“アンドゥ”の意味

アンドゥするとどうなるのか？

1. オーバーダブの最中に、オーバーダブを終了せずにアンドゥすると、そのオーバーダブの全体が消去され、新たに行ったオーバーダブと置き換えられます。
2. ループの再生中（つまり、オーバーダブは行っていない場合）にアンドゥすると、そのループが終わりまで再生された後、最後に確定したオーバーダブが行われる以前の状態に復帰します。
3. ループの再生またはオーバーダブの最中に 2 度アンドゥすると、最初のアンドゥがアンドゥされます。
4. 繰り返しになりますが、オーバーダブの最中にアンドゥすると、そのオーバーダブのデータは失われ、復活させることはできません。なぜなら、アンドゥは単にそのオーバーダブのデータを忘れるという操作になるからです。それに対して、オーバーダブを確定した場合には、アンドゥした時にはそのオーバーダブを行う前の状態に戻り、さらにアンドゥした時にはそのオーバーダブのデータが復活します。

法的表示

Xvive DUET Stereo DualLoop Looperは、FreeRTOSを使用しています。詳細は<https://www.freertos.org>を参照してください。当社は、FreeRTOSのソースコードの開示を求められた場合、それに応じる必要があります。当社では、以下のリンク先でソースコードを開示しています：

<http://sourceforge.net/projects/freertos/files/latest/download?source=files>